



日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社内(電話六三〇番) 印刷所 常磐毎日印刷所

定部金貳錢 廣五錢 告字一十三 料五錢 行一十 日刊休 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五 發行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇番

刊夕日十三月七

平文壇一巡り

(三)

◇草原社の人々

幽邃赤井岳の聖境から「草原」といふ文藝誌が出てゐる、六月に五號を出したばかりのものだが、片寄歌二の詩があるので覗いてみる然しあゝいふ別天地からその形はさうでもとにかく雑誌を出してゐるといふ事は一寸面白い、只記者はその誌名を「草原」なんていふぼさつとしたのでなく何か斯う浮世離れした名が欲しかつた、編輯は阿地英天である、頁をめぐつてみる

と既記詩南社同人に新加入の双葉清が自稱陰鬱な詩を
書いてゐるのを初め舟波耕二、河田康重、大木哲也、原晃他二三が書いてゐるが此の人達はこれからの人だから茲に名前だけ紹介しておく、次に歌の方だが之は後述「歌壇の人々」にゆづる
◇潮、幸、その他
「潮」は双葉清の濱から出てゐたのだが今はそれつきりとなつてゐる、同誌では一時詩南社同人だつた岡田四郎の評論がピカ一、他の人々も詩に歌に俳句に創作にとこつた返してゐるが先づ坂本秀壽、その弟の秀夫、鈴木清一、佐藤徳四郎、丘夜思子、山口不知行及名前不定？の人も混つて酒屋へ三里をきめ込んでゐたのだ平文壇の人として一々紹介

するのは謹んであつて置かう。

「幸」も今は出てないが女流文藝誌を標榜して山路たどるが主宰してゐた仔細にみると筆名の假面に隠れて女裝してゐるのが作品を通して暴露されてゐるのにいさゝか齒がゆさを覺えしめる只既記島田丹光が玲光の名で進出を勵行してゐるのに驚いた、福田将夫も格構な所に姿をみせてゐる、詩に小杉露子、清水綾子がゐるがこの二人は「詩南社」にも相當書いてゐる、その他は敬遠しておく方が禮儀だらう

以上の外本紙の文藝欄でよくみる飯村開舟がゐる、それから「一九三〇年」一輯の吉野かほるも此の邊の古顔だと記憶する、同誌には赤木鐵也、鈴木白羊も詩人といふ顔で並んでゐる
附記 暮鳥系の人々と詩南社の人々とが一緒になつて「表現人」を出した事があつたが船頭多過ぎたかその後查として影をみせないそれから詩南社の人々に秋山愁子を加へるのを忘れたがこの人は詩の選者もやつたのだから初めに挙げなければならなかつた、記者の失念萬謝

健胃と云ふこと散
小野常治謹製

切斷の苦しみなく……
ゆびはれ、やけど、淋病
梅毒、きりまらず、乳はれ
くさ、りうまらず、一切
其他化膿するもの一切

靈藥ムテキ

發賣元
阿康藥舗
縣社下古鍛冶町(電話四四番)

子宮あた、めぐすり
冷之性の御婦人にヨクアタ、マ
リマス
丹波博士創製
セキトメ たんばあめ
うまくてセキ
がヨクトマル

暑中御伺
福島縣平町材木町二番地
京屋洋服店
電話八二八番

最新式高級
セタン型二臺購入
自動車通のお客様は
斷然この車をお撰び致します
高級車でも破格の料金です
是非一度御試乗を！
マツザキタクシー
電話番號は 獅子吼
四四九

看護婦至急募集 (但し有資格者)
吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八番

子宮病が根治する
元祖家傳の子宮
坐薬として名聲噴々たり
白帯下、赤帯下、陰門惡臭の人
子宮冷へ込み腰足の冷へる人
月經不順、下腹痛み引る人
こしけの 下る 方
子宮出血、子宮癌腫の人
逆上、頭痛、ヒステリーの人
淋毒性子宮病、不妊症の人

歴史に古く學理に新らしい著しき効果

子供の出来る名薬

市原商店 平二丁目電話二四四番

館盛常田前 町福島

貸家廣告
平町三丁目二八番地
元鈴木はき物店
二階建土蔵店、勝手、座敷、倉庫
其他附屬一切
右御希望の方は當方へ御來談下さい
鈴木宅

外科 專光
門線科
上田外科醫院
電話一二九番

三井藤原炭礦遂ひに 休山を發表

全山大騒ぎとなり 平署の警官隊急行

特に解雇手當を支給

坑内の熱湯湧出未だ止まぬ三井炭礦にては遂に休止の意を決し本日午前十時礦業所に於て藤岡重役から五十餘名の

社員に

對して休山の己なきに至つた事情を述べ解雇を申渡し更らに午前十一時には從業員の幹部百十餘名に休山の顛末を告げ午後一時には千餘の勞働者全部に休山を發表する處あつたが此の日早朝から底知れぬ暗鬱に閉されて居た同炭礦附近は休山の

發表

共ニ鼎の沸くが如き騒ぎとなり平署より鯨岡警部補以下廿餘名の警官トラックに分乗して同地に至り萬一を警戒中である因に解雇手當の如きは礦業法の扶助規定に依り天災地變に依つて事業を休止する場合に

手當の

支給を必要とせずとの條項に該當するも三井會社であるだけに十分に充分の手當を支給するものと傳へられ多分社員に對しては六ヶ月から八ヶ月分其他從業員には廿日間から卅日間の失業手當を支給するの外歸郷旅費等も與へる模様である

ヂヤンガラ念佛の 無斷押寄せを嚴禁

豫め頼むかどうかを聞け 荒井平署長の發意

そろ／＼近郷の山麓などでヂヤンガラ念佛の鐘太鼓が聞えるやうになつて來た、昔から

石城の

ヂヤンガラは有名なものであるがさて今年の様には不景氣のドン底

ないと思跡をいふものがあるに至つては

沙汰の

限りである其處で荒井平署長は明日管内巡查の召集日を機として種々と適當な取締方を訓示する筈であるが大體無斷に

押寄せて踊つたり金品を強要したりする事は嚴禁とし前以つて世話役か何んか新盆の家に對して金品を要すと否とに拘らず念佛を頼むかどうかを聞いた上に始めさせる方針であるらしい

懸聲ばかりで 認可が來ない

水道擴張工事の起債

氣をもみ出した町當局

もう遠ふに來ねばならぬ苦の半町上水道擴張工事起債認可が懸聲ばかりで何んの音沙汰もないので一體イツになつたら發令を見る事が出来るのかとあせり出した

又もや溺死

足すべらして

石城村高久村大字高久字山の入農己之吉孫岡部ヨシノ(三)は廿八日午後三時頃同村小館堤にて友達數名と水

京して最後の運動を試みる事となつた

烈日下の オワシス

職・業・介・所・に・現・れた 昨今の世相

昨日の午後——烈日の下にオワシスを見つけた氣持で平町職業紹介所へいきなり飛び込み「どうです此頃の景氣は？」紹介所の曰く「平町で毎日の衣食にさへ困つてゐるのが昨年末で二十軒ありました、六錢持つて米買ひに行つた事は新聞にも載つてゐましたが實際その可哀な事

は生活の樂な人達に話しても諒解出來ないらしく一口に「働かないからだ」といふのです」

十三日會主催 經濟講演

大塚商大教授

平町十三日會にては目下小名濱町に避暑中なる商科大學教授大塚金之助氏に乞ふて三日午後七時より南町日本基督教會に於て經濟講演會を催すと

湯札割引

十錢に三枚と

平町湯屋組合は愈々本月一日から湯札一枚四錢であつたものを十錢に三枚と値下決定し向は從來の木札は多數人の手を博々して衛生上有害の爲め一枚一回限りの紙札と改める由

もありませんがその反面に於いてそれ以上の大供達が減首されてゐるのでこの不景氣に怠屈な大供達をすらすらと並べておくよりも氣の利いた小供を使つた方が白パーセントだといふ商家の魂膽である

「仕事がないかとやつて來るのは各方面からだが炭礦方面が駄目、漁師にでもといふがこれは外來者を歓迎しないし農家は田植時だけで結局残るは町内だがこれも思はずしくない有様です」

小名濱の棧橋が 昨夜海中に埋没

激浪に折られて

圓最低廿錢の範圍に於て夫々賦課徴集すべきが妥當である旨本日同組合平方部長に對して荒井平署長から勸告あつた爲近く總會を開いて斯く決定する模様である

組合費を 等級割とす

平理髮業組合の組合費は一ヶ月四十五錢でどの店も均等に徴收されて居るが今回の改正料金は依つてどの店も理髮料が同様であるの結

不安を感じ

歸郷旅費に 衣類を盗む

石城郡内郷村大字宮字磐城炭礦七年會々員東京府生れ松原喜一郎(三)は炭礦生活に不安を感じて歸郷する爲めの旅費に當てんと廿八日夜同僚の菅原清の木綿單衣と黒ガサリの兵兒帯を窃取し平署に捕る

とぼつり／＼語り出すのを聞いてゐると全く不況は深刻だ四家主任が「どうだ豆腐屋はやらんか」と言ひば彼はほつとした様子で「やつてみます」早速豆腐屋さんに世話をされた彼は「いそ／＼と出て行つたこれ等は極めて手取り早く決まつたが中に中等學校出身の者が「事務員になりたい」と言つてくるのには一番困るさうである、高女出身程度で「東京へ女中に行きたい」のが聞かるといふ

「今まで野菜を賣つて居たのですが得意先にはちびりちびりと貸し附けたのが今は四五十圓になつてゐてどうにも動きが取れません、別に商店で働いてゐても三ヶ月別居して仕事をないでせうか」

甲月命通り「三」も



今晩も明日も北東の風曇りがち一時晴れますが驟雨が降り海も山も荒れ模様

△前六・二〇 夏期獨逸語講座(第十一)武内大造
△前七・〇〇 健康講座「家庭療法」第一回醫學博士 矢部專之助
△前九・一〇 料理献立「カルピス入水羊羹」暨井たす發表 日用品値段
△前一〇・二〇 家庭講座「愛兒を伴ふて避暑される母のために」醫學博士 青木醇一
△後〇・〇五 獨唱と管絃樂(獨唱)澤智子東京ラヂオオーケストラ(指揮)奥山貞吉

△後六・〇〇 女聲合唱「ラチエチリヤ」(指揮)山崎朝也(伴奏)北川滿都子
△後六・三〇 水産講座(鱈の利用に就いて)水産試験場技師木村金太郎
△後七・二五より△後九・三八まで 講談の夕「勘七猫」一龍齊貞山「五色の鳶」柴田南玉「義農作兵衛」桃川若燕「向島の狐」寶井琴凌「不破數右衛門」大島伯鶴
△後九・四〇 時報氣象通 報番組豫告

女聲合唱

コーラ、チエチリヤ 指揮 山崎朝也 伴奏 北川滿都子

一、齊唱
△ボートの歌(文部省唱歌)
漕げや、オールも折れ
漕げや、クラッチも摧けよ
漕げや、腕は火となれ
漕げや、血しほは燃えよ

二、二重唱
△(イ)漁歌(文部省唱歌)
一、ふくや真南、夜明けの濱に、鳴るは磯松、大波小波、鷗來い、草葉の沖へ、けふの鯛の寄りのよき、矢聲そへて、漕行けや
二、漕ちうづまき、鳴りこむ潮は、花か吹雲か泡立つ酒か、波の下にも日の影ゆれて、鯛やたなごが群れあそぶ、矢聲そへて漕ぎゆけや
三、焼ける夕雲吹きちれ水沫、舵の力は鯉の尾端、せとの荒波一伸しに、矢

聲そへて漕ぎゆけや
四、山を自あての沖釣くれ
て、闇の海原風ふく音よ
波は一つ火あけゆく船は
親が待つては子うもあろ
矢聲そへて漕ぎゆけや
△夏のひかり(ハワトル
ネ作曲)
四方の山に野に光かゞやき
緑さわやかに夏ははや來ぬ
露踏みわけゆけば朝風かを
りて、見よ青葉のにはひ空
をながる、鶉鶴翅ひたす
やせ、らぎ、水も澄みて、
す、しき夏のすがたよきや
けき夏のひかり

カルピス入水羊羹

盤井たす發表
▽材料(寒天一本を標準として申し上げます)寒天一、白糖百五十匁、カルピス六匁
▽調理法 寒天をつけた二十三分後水分を十分取り細く手にてむしり取り鍋に入れ、水二合を加へて火にか

るを其のまゝ、使用致します
固りましたらば流し箱から
出して適當に庖丁して鹽水
にて洗ひました櫻の葉にて
一つ、包み進めます特に
注意する事は常に弱火にて
いつも静かに交せ居る事、
寒天が充分に溶けてから砂
糖を加へる事、流し箱をぬ
らしたるまゝ使用する事、
又白糖でなく生糖を使用さ
れる時は寒天一本に水一合
五匁砂糖百三十匁生あん百
七十匁の割合にて其の他は
前申し上げましたのと同様
にすれば宜しうございます

避暑を愛する母の爲に

青木醇一 醫學博士(家庭講座)

都會生活は特
に小兒にとつ
ては其
の發育
上又は
健康上
遺憾な
點が決
して少
くない
のであり
ます。従
つてせ
めて暑
い夏の
間だけ
でも不
健康な
都會を
去つて
、風光
明媚な
山又は
青松白
砂の海
邊に愛
兒を伴
つて美
しい自
然にも
接せし
め又そ
の健康
をすゝ
める事
に努め
ること
は甚だ
大切な
事であ
ります
。然し
どんな
健康地
に避暑
さるに
あつて
もその
日常の
生活方
法が宜
しきを得なければ決
して轉地の効果を十分
に擧げることが出来
ないばかり

でなく、時には却つてその
健康を害する様なことも決
して少なくないのであります
そこで私は小兒の母たる方
々に對して避暑に就ての二
三の注意を致したのであ
ります、小兒の健康を進め
又病氣にかけぬ様にするに
は日常の生活を規則的に
する事が最も大切で、食事
運動、休息、睡眠など凡て
規則的にし且つ適度にす
る事に就ては細心の注意が必
要です、次に適宜な運動が
必要であると共に運動が過
度にならぬ様に注意を加
へねばなりません、又年長
の小兒で海にいつて居らる
る方には勿論水泳をおす、
めいたしますが、水泳をさ
れる際には必ず危険のない
場所を選ぶことが必要で
す。
尚運動と共に適當な休息が
大切で、私は特に晝食後
短時間の晝寝をおす、めい
たしたい更に又避暑地に於
て小兒が病氣に罹つた際の
注意を一二述べたいと思ひ
ます、尚最後に避暑地に於
て小兒の病氣や外傷などに
對して必要な二三の藥品の
使用法などを述べて私の講
演を結ぶ考へであります

眼鏡

トキハヤ 平野一丁目

夏服 輕快で瀟洒な夏服の季節となりました。スマートな今年度の新製品が豊富に取揃ひました。
◆輕裝上衣 セル4・20ヨリ カシミア 10・00ヨリ
◆白直衣 1・60ヨリ
◆白づぼん .60ヨリ
平二あかや洋服店 電話203

實用的冷庫 特價提供 (便輕價安)
◆冷庫の寸法
小型 大型
間口一尺二寸 間口一尺五寸
奥行一尺 奥行一尺二寸
高サ九寸 高サ一尺一寸
(定價五圓半錢) (定價七圓半錢)
一、安價にして輕便且つ堅牢大衆向きであり更に臺所の實器であります。
二、絶縁材料として優秀なる山形ルーフイングを使用しておりますから水の消費量極めて僅少で非常に經濟的であります。
三、小型冷庫壹個の重量僅かに一貫五百匁位、すから野外携行用として又旅行用として飲食物其他殊に生物の保存運搬に頗る便利であります。
四、病院又は各家庭に於ける病室用として至極輕便にして重寶であります。
五、嚴寒の節には保温器として用ひられ御飯其他日常食物の温かみを長時間保つ事が出来ます。
釜屋商店器物部

江戸前料理 食堂

美味で評判の良い
鳥料理

ぜし一度御試食下さい

出前迅速 錦水

田町末廣東隣り (電話四二二番)
(呼出八〇三番)

ヤサシイ平町民諸君

横暴専制の限りを盡す
高い電燈瓦斯料の 盗部電力怪社
を協力一致して糾弾させよう、
町會議員、各區長、無産黨、皆意氣地なし何の頼り
になるものか

第二回電燈瓦斯値下協議會開催

場所 四丁目農工銀行横 警城矯正會本部
日時 八月一日午後一時
接待 アイスクリーム サイダー等

●節約せられよ● 卓上のは「ヤマト糊の詰替」
大壇金五錢 小壇金二錢 目方八十匁金十錢
平町三丁目 (電話一六六番)

宇佐美藥局

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 女醫 木村コウ
内臓外科 醫學士 松永憲一
整形外科 醫學士 萩原駿二
藥局 東京藥學士 萩原駿二

吉町目 和久井屋 雷〇五番

涼しい 藤椅子
寝臺と 卓子
簾屏風の 特賣廉賣

お醬油はヤマフル

醬油味噌
たひら正宗
鯉節 食料品

金山崎合名會社

鹽屋
福島縣平町
電話(營業部)二七〇番
(醸造工場)二七番

久能木式石油コンロ

▲燃料經濟日本一 ▲今が需要最好期
部分品附屬品修理修繕 平町
御一報次第實物持參 城山
吉田藥舖



子寶湯

「コリヤ、あんたの方がく
れるお小遣の内から買
たいんちやが、嫁女
に届けてやっ下され
ウルサク何かや彼や言
ふと思ふちやが、歳と
とると、孫の顔
が早く見たいや
オホホホホ」

●数月後のこと
「ウフフ待ちきれなうチ
待ちきれなうチ又ま
たヨ...その後の様子は
フム...フム...オホホ
ソリヤ...たはな...
中將湯は、よく効きま
す...って、オホホホ
それでは本當に、目出度
い、嬉しや...
オホホホホ」

中將湯

産科婦人科諸博士推奨
良薬

主効
子宮病、血の道、ヒステリ
産前産後、浮腫、悪阻
しびれ、月經不順、頭痛、眩暈
逆上、腰痛、下痢、不眠症
下腹膨満、冷感、下痢、足
引つり、痛み、白帯下、赤帯下
こしけ、血氣、氣、感冒

定價
試三瓶 八分
日用 十五分
三日 三十分
五日 五分
十日 十分
一月 五分
三月 十分
半年 五分
一年 十分

本舖 津村順天堂 東京 大阪

移轉廣告

店舖改築中三丁目横町、藤市蒲鉾店向へ一時移轉致
しました

移轉中大特賣

夏トロンビ 大見切
合着セビロ 六十錢
作業ズボン 六十錢
小學生通學服 五十錢
夏セル 上着四圓五十錢
黒セル 上着三圓八十錢
鼠セル 上着三圓八十錢
男女ゴム引マント 一圓十五錢



正札堂洋服店

假營業所

平町三丁目通

◆中學生通學服、小學生學服特賣